

# 報告書

## 1 目的

急速な高齢化が進む日本では、ヘルスケア分野、特に介護領域での施設や人材の不足などが原因で介護難民の増加が課題となっており、今後はIT・デジタル技術を活用した対策などが必要とされている。すでに先進的な取り組みを始めている施設もあるが、まだ始まったばかりである。

そこで、下関の将来を担う若者の発想力・実行力を活かす人材育成モデルを構築するため、介護領域の課題解決をテーマに、以下を目的とするハッカソンを開催した。

### 1. 介護領域の課題に、IT やデジタルの力で取り組む意欲のある人材の育成

幅広い層の学生が、介護・地域福祉に関心を持ち、将来のイノベーションを生む人材になるきっかけをつくる

### 2. 多様なバックグラウンドを持つ学生のコミュニティづくり

ITスキルのある学生、介護・医療の職業を目指している学生、デザイン等を学んでいる学生などの繋がりをつくる

### 3. 新しいソリューションのタネづくり

ベンチャー企業との連携及び資金調達として各種ファンドや助成金などを活用した事業化へのきっかけをつくる

### 4. 介護福祉業界の人材増加に向けた、先進的介護のイメージ発信

下関における、IT・デジタル技術を活用した先進的な取り組みの世間へ発信する

## 2 企画・運営

ハッカソン実施にあたっては、企画運営のアドバイスやメンター業務を特定非営利活動法人 STEM Leaders へ委託するとともに、ハッカソンの趣旨に賛同いただいた市内企業及び大学等から協力いただき企画・運営を行った。

- 梅光学院大学 特任教授 吉島 豊録
- 下関市立大学 准教授 金 珉智
- 特定医療法人茜会 よしみず病院 人事課長 脇岡 一平
- 特定医療法人茜会 桜山ケアプランセンター 介護支援専門員 大野 孝宏
- 株式会社セービング 地域連携チーム 山根 初純
- 株式会社 etika 代表取締役 宮村 佳祐
- 有限会社チエレスティアール 代表取締役 山口 玲央
- 合同会社 UTAGE.WORKS 代表社員 川嶋 光太郎

## 3 参加者

参加者は 30 名

内訳は以下のとおり

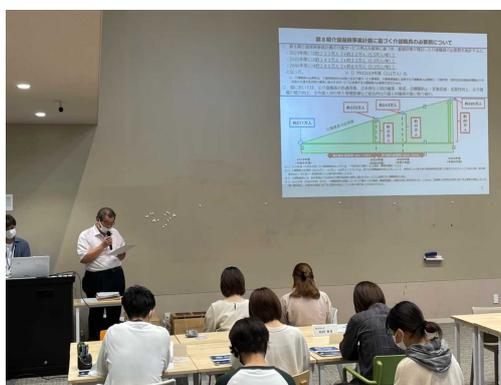
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ● 市内大学・専門学校：20名 | ● 社会人：10名       |
| ➢ 下関市立大学 5名     | ➢ 日新運輸工業株式会社 2名 |
| ➢ 梅光学院大学 6名     | ➢ 特定医療法人茜会 2名   |
| ➢ 東亜大学 8名       | ➢ 株式会社ケアセラピー 1名 |
| ➢ 下関文化産業専門学校 1名 | ➢ 下関市役所 5名      |

## 4 主な活動内容

2021年10月16日（土）のキックオフから2022年1月22日（土）の最終審査会までの3ヶ月の間、介護やITの知識がない参加者が多い中、各チームで毎週Web会議を開催しながら、ヒアリングや勉強を通じてソリューションの検討を行った。

### 2021.10.16 キックオフイベント

梅光学院大学にてキックオフイベントを開催しました。当日は、下関市内の大学、専門学校、企業から31名の学生・社会人にご参加いただきました。初対面にもかかわらず、ワークショップではお互いに意見を活発に交わす姿が見られました。キックオフイベントでは、前半に勉強会、後半にチームでの課題アイデア出しのワークショップを行いました。



## 2021.11.20 中間発表

各チームに介護領域に対する問題意識や取り組みたいと考えている課題、課題を解決するためのソリューション案について発表していただきました。

有識者の方々から、介護現場経験者ならではの観点や、アイデア実装の手法といったさまざまな観点から、各チームの発表に対してフィードバックをいただきました。

終了後は、引き続き有識者へ質問を行ったり、フィードバックコメントの生かし方や今後の活動の計画等について相談したりと、活発なチームアクティビティが行われました。



## 2021.12.18 中間発表

前回の中間発表から1か月、各チームは有識者からいただいたフィードバックを活かし、課題の深堀や具体的なソリューション案の検討を行ってきました。

今回の中間発表でも、各チームの発表に対して有識者の方々から介護現場ならではの観点はもちろん、ビジネス的な観点や技術的な実現可能性、ユーザー目線でのデザインなどについてフィードバックをいただきました。終了後は、引き続き有識者へ質問を行ったり、フィードバックコメントの活かし方や今後の活動の計画等について相談したりと、活発なチームアクティビティが行われました。



## 2022.1.22 最終審査会

梅光学院大学において、最終審査会を開催しました。

全6チームによる発表が行われ、厳正なる審査のもと受賞チームを決定しました。

### ● 各チームの発表内容

	課題	ソリューション案
チームA	認知機能低下の早期発見	会話の状況から認知機能の低下を分析し、家族が高齢者の状況を知ることができるラジオ型ロボット
チームB	認知症患者に対する介護負担	学校と介護施設をマッチングし、子供達に昔の話を伝えることで、回想法を用いた認知症の予防・社会貢献ができるアプリ
チームC	高齢者の栄養不足	少量で栄養が採りやすいおやつに着目した、LINEで栄養管理ができるおやつの宅配サービス
チームD	在宅介護を行う家族の不安解消	介護家族同士が家族を介護施設に入居させるときや介護に関する不安を感じたときに情報共有や質問ができるアプリ
チームE	ホームヘルパーの人材不足	利用者さんの情報整理や音声機能を使った質問応答ができるボイスロボットを活用した業務効率化サービス
チームF	介護職員の定着率の低さ	シーツや枕カバー、ゴム手袋等の在庫確認に係る業務などの負担軽減に着目した介護業務軽減アプリ

### ● 表彰 最優秀賞：チームB 優秀賞：チームC せきまる賞：チームA



## 2022.2.8 最優秀賞受賞チームの市長訪問

最優秀賞を受賞したチームBのメンバー5人が下関市役所を訪問し、前田市長にソリューションを提案しました。前田市長からは、「子どもたちは1人1台タブレットを持っており、いろんな事ができそうで、いいところに目をつけたと思う。実現できそうなアイデアであり、学校側の授業としての魅力や子どもたちの需要も分析して欲しい。市の施策にも反映させたい。」と激励いただきました。



## 5 効果の検証

事業の実施目標として設定した KPI については、デジタル技術やデバイスを活用した新しいサービスアイデア数「6」の目標を達成した。

また、実施目的の効果を検証するため、ハッカソン終了後、参加者アンケートを実施した。(別添アンケート集計結果参照)

- 1. 介護領域の課題に、IT やデジタルの力で取り組む意欲のある人材の育成  
アンケート (Q3~Q7) の結果から、本ハッカソンの実施により介護に対する興味・関心を高めることができ、また、課題解決に向けて、デジタル技術を活用して新しいものを生み出すことへの興味・関心を高めることができ、目的の人材育成に効果があったと言える。
  
- 2. 多様なバックグラウンドを持つ学生のコミュニティづくり  
チーム編成を行う際に参加者の所属が偏らないよう工夫したことで、各チーム内で多様なバックグラウンドを持つ学生のコミュニティづくりの形成を行うことができた。
  
- 3. 新しいソリューションのタネづくり  
アンケート (Q14) の結果から、ハッカソンでできたソリューションをプロジェクトとして進めていきたい参加者が 4 名おり、特定非営利活動団体 STEM Leaders に加わり、今後引き続きプロジェクトとして進めていきたいとの話を受けている。  
また、市内企業から事業化に向けた連携について相談を受けるなど、事業化に向けた準備が進められている。
  
- 4. 介護福祉業界の人材増加に向けた、先進的介護のイメージ発信  
今後、提案されたソリューションが具体化・ビジネス化されるよう、STEM Leaders や関係機関と連携を図り、先進的なイメージ発信に向け取り組む。